



事業系ごみの資源化推進を求む

問 ダンボール箱を利用して生ごみを減量する方法について研究中である。各地区での説明会などではまだ紹介していないが、今後そのようなことも紹介したいと考えている。

◆ごみ分別

問 事業系ごみも、分別されていないければ回収しない方針でいったらどうか。(五味)

答 現状の実態を把握するための予算を付け、資源化推進に向け取り組んでいく。

◆ごみ処理の広域化

問 可燃ごみの減少により、広域的な方向で進めて頂きたいと思うがどうか。(五味)

答 柿沢の処理施設の大規模改修を一年間先送りし、広域化施設整備を検討していく。

◆ミニ防災組織強化は

問 高齢化、核家族化の進む中、ミニ防災組織の拡充は。

◆元氣っこ後期プランについて

問 市は、元氣っこ育成支援プランで保育、育児サービスの充実のひとつとして「認定こども園」の設置を進めるとしているが、塩尻市の保育園では保育所設置の最低基準といわれる国の「設置基準」を上回る保育士の配置、施設整備等進めてきている。認定こども園では、こうした内容で行っていいのか。(鈴木)

答 プランには、市の保育園

子育てと仕事の両立

答 被害や犠牲者を少なくするにはミニ防災組織の役割は大きく、経験者の講演や危機感を喚起する方法を考える。

(太田)



塩尻市議会では昨年愛知県高浜市の認定こども園を視察した



今年2月に行われた男女共同参画に係わるセミナーの様子

では「子育てと仕事の両立」の支援を進め、勤務形態の多様化に合わせた延長・休日の特別保育など公的保育の充実を図るとともに、選択肢の拡大に繋がるものと、民間の認定子ども園などを盛り込んだ。県の認可は「設置基準」により行われるが、市としては、よい環境での設置が行われるようにはたらきかけていく。

◆男女共同参画推進

問 市の男女共同参画基本条例が制定されて10年目だが、今後の課題は何か。(丸山)

答 全国に先駆けて男女共同参画都市宣言及び条例を制定し推進してきた。政策・方針等決定過程への女性の参画の課題は今後も重要。地域へも働きかけていく。また、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進を男女



共に図っていく。

◆中小企業への直接支援を

問 仕事の激減の中、苦慮している中小企業は、これまで雇用や納税など、地域経済のけん引役を果たしてきた。新規の企業進出などで行われる税制優遇措置のような直接的支援の考えは。(鈴木)

答 制度資金の枠を拡大し、条件緩和、保証料の自己負担分をなくすなど行い、対前年度比1.3倍の利用となっている。直接支援については実態調査を行い検討していく。



企業支援の相談窓口(市役所2階 商工課)